

農作物技術情報 第5号 畜産

発行日 平成22年 7月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

牧 草

- ・ 2 番草刈り取りは 10～15 cm 程度の高刈りとします。
- ・ 草地更新の準備をしましょう。

家畜（牛）の暑熱対策

- ・ 今年の家畜の苦手な暑い季節が長く続きます。
- ・ 通気を良くして快適な環境を作り、暑熱による生産性の低下を防ぎましょう。

1 草地管理（2 番草）

7 月中旬頃から 2 番草の収穫作業が始まっています。夏の強い日差しを受けると地面の温度が上昇し、根が高温障害を受けやすくなりますので、刈り取り高さは 10～15cm 程度の高刈りとし、根を直射日光から保護しましょう。

刈り取り後は再生を促すために素早く追肥を行ってください。チッ素成分で 3～5kg/10a 施します。なお、高温下での追肥は草地を痛めますので控えましょう。

2 草地更新

8 月下旬から 9 月中旬は、牧草の播種適期です。裸地や雑草が多い草地は、収量と栄養成分を確保するため、草地更新を行います。

更新は、耕起をしない簡易更新法と、耕起をする完全更新法があります。

雑草の侵入が少ない場合や、傾斜地で土壌流亡が懸念されるため完全更新が実施できないような場合は、簡易更新を行います。簡易更新は完全更新に比べて、短期間・低コストで更新が可能です。

雑草の侵入が多い場合、完全更新法を実施します。この更新法に除草剤の播種日同日処理技術を組み合わせることで、より確実な草勢の確保ができます。手順は、次のとおりです。

- (1) 播種する 1 ヶ月前に耕起・整地・播種床の造成を完了し、雑草を繁茂させる
- (2) 播種日に非選択制除草剤を雑草に散布し、播種する

以上の更新作業は、(社) 岩手県農業公社に委託することもできますのでご検討下さい。
また、簡易、完全更新どちらについても、忘れずに土壌改良を実施して下さい。

1. 簡易更新法(作溝式)



グラスファーマー

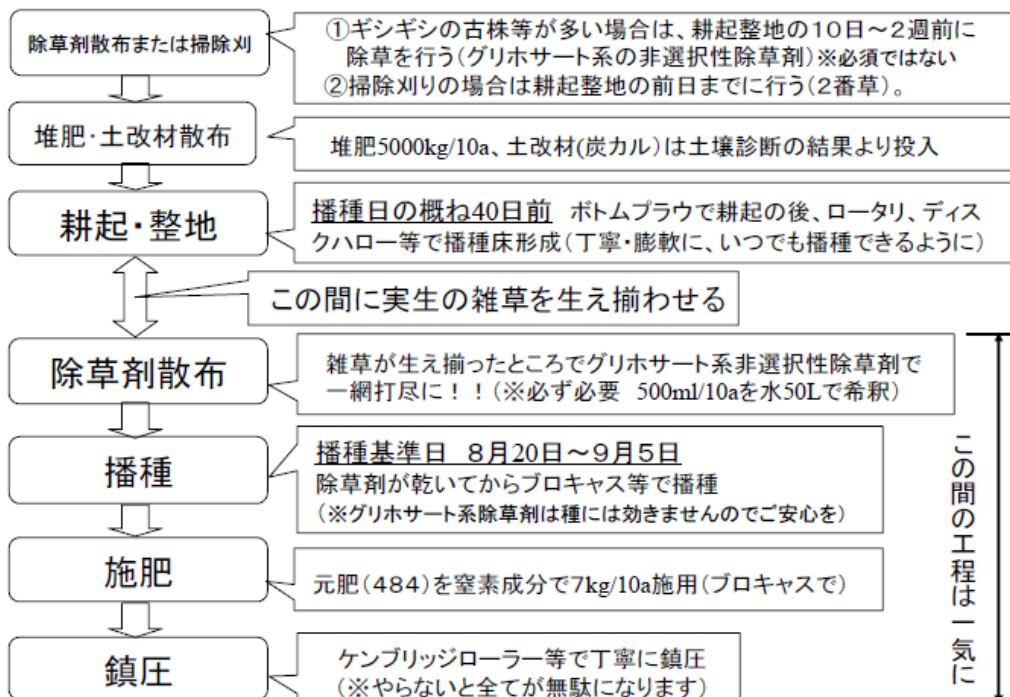


は種作業



刈取後の様子
(筋状の新播草草が見えます)

2. 完全更新法(除草剤の播種同日処理技術)



3 暑熱対策の重要性

気温が高くなると、家畜は呼吸数や発汗を増加させて熱を体外に逃がそうとし、また採食量を減らして体温の上昇を防ごうとします。すると、乳量の低下や繁殖機能の低下、日増体量の減少といった生産性の低下を引き起こします。また、直射日光の下や高温多湿の牛舎内など体熱を放散できない環境下では、日射病や熱射病にかかってしまいます。

そもそも家畜は発汗による熱放散機能が低いので、家畜を暑熱から守ってあげることが必要です。調子が悪くなった家畜をなるべく早く発見し、対処することが重要になります。

4 家畜の体温上昇抑制と環境温度の低下対策

次の対策を講じ、家畜を暑熱ストレスから守りましょう。

- (1) 畜舎の窓や戸を開放し、**換気・通気**を行いましょ。また、換気扇・扇風機・ダクトファン等の送風・通風器具の使用も効果的です。この場合、風は熱放散が大きい頸部や肩に当てるようにし、夕方から夜間にも送風を継続させましょ。
- (2) 直射日光や西日が当たる畜舎では、**遮光ネット等**を設置して強い日差しを遮りましょ。また、屋根に白ペンキを塗布すると日射熱が軽減されます。
- (3) 畜舎内外や屋根に散水・放水しましょ。気化熱作用により舎内温度が低下します。
- (4) **新鮮な水を常に十分飲めるように**しましょ。
- (5) 密飼いを避けましょ。
- (6) **牛体の毛刈り**をすると、熱の放散がしやすくなり、暑熱ストレスを軽減できます。

5 飼料給与の注意点

牛は飼料を摂取すると、ルーメン発酵により大量の熱が発生します。暑くなると熱の発生源となる飼料を食べなくなります。このとき、粗飼料、濃厚飼料の順に採食量が減少します。

暑熱時には以下の点に注意して飼料給与を行いましょ。

- (1) 良質な飼料を給与しましょ。**粗飼料は、良質なものの**ほど採食・反芻・ルーメン内発酵のスピードが短時間となり、ルーメンの熱生産量が少なく体温上昇を防げます。
- (2) **配合飼料の給与割合の高い搾乳牛**は、粗飼料の食い込みが落ちると反芻が減り、ルーメンアシドーシスを引き起こすので危険性が高まります。**重曹を1頭当たり100～200g程度**給与して第一胃内のpHを調整します。エネルギー給与の改善のため綿実やダイズ等のバイパス油脂の利用も有効ですが、乾物当たり2～3%が上限です。
- (3) 高温時には、発汗や脱毛などに伴い、カリウム (K)、ナトリウム (Na)、マグネシウム (Mg) などの**ミネラルの要求量**が増えますので、通常より**1～2割程度増給**しましょ。
- (4) 飼料は涼しい時間帯に給与するとともに、給与回数を増やして採食量低下を防ぎましょ。

6 口蹄疫対策

宮崎県において口蹄疫の非常事態宣言が解除されましたが、口蹄疫が終息したわけではありません。対策は侵入防止の徹底です。今後とも、牛や豚などの偶蹄類の家畜を飼養されている農家では、衛生対策を継続して下さい。

次号は8月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょ
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょ
- 農薬の保管・管理は適切にしましょ